

教育方針	「どこに出しても恥ずかしくない人間になれ」 「国家社会の役に立つ人間になれ」	重点目標	生徒一人ひとりの夢や希望を叶える教育の推進 — 自らの成長を実感できる生徒の育成 — ○けじめと思いやりの心を育む学校 ○自ら学ぶ意欲・態度を育てる学校 ○地域とともにある学校 ○安全・安心な学校
	【指導方針】 一人ひとりの生徒を見つめ、励ましを与え、たくましく生きる力を育む教育の推進 ・豊かな心情をもった節度のある人づくりの推進 ・自ら学ぶ態度を身に付けさせる教育の推進 ・チャレンジ精神を育む教育の推進 ・健康で明朗な心身の育成を図る教育の推進		

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
1 学校 経営	地域に開かれた学校、及び地域貢献活動の推進と学校教育活動の公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とともにある学校を推進するため、各種公開講座の実施、地域イベントへの積極的参加、教育関係団体等への施設設備の解放等を行う。</li> <li>・ホームページに毎日の教育活動を公開し、生徒が生き生きと活動している様子を掲載する。</li> <li>・各課の定期刊行物を適時掲載する。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策のため、各種公開講座の実施、地域イベントへの参加、教育関係団体等への施設・設備の開放等はほとんどできなかった。</li> <li>・日に偏りがあるが開校日にはほぼ毎日ホームページに教育活動の様子を公開できた。</li> <li>・各課の定期刊行物を適時掲載できた。今後も継続したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の動向を見ながら、各種公開講座の実施、地域イベントへの参加を促したい。施設・設備の開放は授業や部活動に支障のない範囲内で実施していく。</li> <li>・学校行事を計画する際にはホームページへの掲載担当者を明示するなど入力業務の義務付けを行う。</li> </ul>
	校務 I C T 化の推進による業務改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務支援システムを活用して校務の軽減を図ることによって、生徒の指導に当たる時間を増やし、働き方改革を進める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務支援システムの活用による校務の軽減を図ることができ、空いた時間を生徒の指導に充てたり、勤務時間の軽減を図ったりすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の入力忘れを防ぐため、当日に入力することを徹底していきたい。また、校務支援システムの運営に係る業務に偏りがあるので標準化できるよう業務の見直しを図る。</li> </ul>
	P T A 活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事の工夫により、保護者の多数参加を達成させる。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修旅行・スポーツ交流の中止、体育祭、農業祭の縮小化などほとんどの P T A 活動が実施できなかったが、役員と連絡を取りながら、総会の書面開催等を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の動向を見て役員との連携を密にしながら各行事の実施方法を検討していきたい。</li> </ul>
2 学習 指導	教科指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I C T を活用した授業を展開し、分かる授業・達成感のある授業に努めるとともに、生徒が興味・関心を持って意欲的に授業に取り組む態度を養う。</li> <li>・個々の学力に応じた学習指導を行うために、確認テスト等により理解度の把握を行う。</li> <li>・教科学習指導計画表を基に、進度に無理が生じないように計画的な学習指導に努める。</li> <li>・授業公開日を年間 5 日設定し、参加者を確保するための対策を立てる。教員相互の授業参観も取り入れながら自己研鑽に努める。(A:5日、B:4日、C:3日、D:2日、E:1日)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期以降 I C T を活用した授業を積極的に実施した。校内研究授業においても I C T を活用した授業を行い、全教職員で参観を行った。</li> <li>・ I C T を活用するための研修会を行い、学習支援ソフトと WEB 会議システムを活用した授業展開に向けて研修会を重ねることができた。</li> <li>・年度初めに休業期間があったが、学校行事の縮小や夏季休業期間の短縮により、予定していた学習指導を無理なく行えた。</li> <li>・今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために授業を公開できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I C T を活用した研修会を重ね、すべての教職員が授業の中でその活用ができるようにする。再び学校が休業になった際には、学習支援ソフトなどを利用しながら学びの保障を行いたい。</li> <li>・来年度は生徒一人に 1 台のタブレットが支給され、 I C T 教育が更に進むことが想定される。 I C T の効果的使用について教職員の更なる研修の機会を設けたい。</li> <li>・授業公開日を来年度も 5 日設定したい。</li> </ul>

評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

	家庭学習習慣の定着及び基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習時間調査を活用して定期考査期間の学習意識の向上に努める。また、家庭学習習慣の定着を図るための課題を設定する。</li> <li>漢字テスト平均点85点以上や数学計算テスト平均点75点以上などの具体的な目標を持たせると共に、自主的に学習に取り組む態度を養い、基礎学力の定着を図る。 (漢字テスト A:85点以上、B:84～80点、C:79～75点、D:74～70点、E:70点未満) (数学テスト A:75点以上、B:74～70点、C:69～65点、D:64～60点、E:60点未満)</li> <li>安易な欠席・遅刻をさせず、1か年皆勤者率50%以上を目指す。欠席の多い特定の生徒には、家庭との連絡を密にし、欠席が増えないように努めさせ、休まないという意識を高めさせる。 (A:50%以上、B:49～40%、C:39～30%、D:29～20%、E:20%未満)</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生で家庭学習時間の不足が感じられた。普段の授業と合わせて家庭での学習の大切さと家庭学習の習慣化を図る必要がある。</li> <li>漢字テストの平均点はC:76.4であった。昨年度と比べると下がった。</li> <li>数学計算テストの平均点はA:75.4であった。</li> <li>今年度は欠席が多く、全校生徒がそろって授業を行えた日が少ない。新型コロナウイルス感染症の不安を訴える生徒もいた。</li> <li>今年度は、進路変更した生徒が4名いた。学習目標を失わないような指導が必要であり、入学させた生徒を卒業まで育てるという思いで指導に当たりたい。そのためには家庭との連絡をさらに密にする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学当時から学習目標を持たせる指導を行いたい。また、進路課とも連携しながら、進路目標を持たせた学習指導を進め、四年制大学へ進学を目指すことができる学力を身に付けさせたい。</li> <li>基礎学力の定着のために行っている漢字テスト、数学計算テストに向けた学習を徹底させる。その際、国語科、数学科とも連携しながら、クラスによる指導の差がないようにしていく。</li> <li>教務課長講話を通じて家庭学習の定着を図るとともに、学習の大切さや考査の意義を継続して指導していきたい。</li> </ul>
3 生徒 指導	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>さわやかで気持ちの良い挨拶や返事、正しい言葉遣いができる生徒を育成する。</li> <li>家庭との連携を深め基本的な生活習慣を確立し、いじめや問題行動の未然防止と早期発見に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「正しい言葉遣いや元気な挨拶ができています」では、昨年に続きよい評価であった。</li> <li>「保護者との連携が十分とれている」では、保護者から高い評価を得ている。</li> <li>ここ数年、5分前登校ができていない生徒が減少してきており、基本的な生活習慣の確立がなされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員は生徒に対して毅然とした態度で接することを心掛け、規則・マナーを守らせる。</li> <li>時間・提出期限・身だしなみ・けじめをつける指導を行う。</li> <li>無断アルバイト、深夜徘徊や外泊をさせないように家庭・地域と連携して、問題行動を未然に防ぐよう努める。</li> </ul>
	個別指導の充実と教育相談の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人面談を1人年間3回以上実施し、きめ細かい心の通う生徒指導に努める。 (A:3回以上、B:2回、C:1回、D:0回)</li> <li>家庭との連携を深め、不登校の未然防止と早期発見に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期初めに面接週間を設定していたが、新型コロナウイルス感染症に対応したために、家庭訪問を含め、年3回以上の面接は実施できなかった。</li> <li>教育相談課と協力していじめや不登校生徒に適切に対応した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面接週間以外でも生徒の様子を観察し、必要に応じて電話連絡や家庭訪問を行い、いじめ・暴力・不登校の早期発見に努める。</li> </ul>
	自ら行動できる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>規則が遵守できる判断力のある人間の育成に努める。</li> <li>誰が見ても端正で清潔感のある身だしなみが自主的にできる学校づくりを目指す。</li> <li>自分の身は自分で守るという意識を持たせ、交通ルールやマナーを守る態度を育てる。</li> <li>教室の整理整頓や、施錠を確実にできる態度を養う。</li> <li>携帯電話のルール・マナー・モラルを持って使用できる生徒を育成する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年、生徒の規範意識が高まり、校則や身だしなみの違反者が減少した。</li> <li>地域からの「元気な挨拶ができ、行動が良くなってきている。」という評価が定着しつつある。</li> <li>自転車通学生の違反・事故は接触事故が2件、自損事故が1件、原付通学生の事故は0件であった。</li> <li>登下校のヘルメット着用率は100%であった。</li> <li>盗難が1件発生し、教室の整理整頓や移動教室時の施錠する意識を高める必要がある。</li> <li>校内での携帯電話不正使用は、ここ数年続けて減少している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HR活動で道徳教育を行い、規範意識を身に付けさせる。また、自主的に身だしなみを整えられるよう意識させ、校外での制服の身だしなみの乱れを減少させる。</li> <li>原付通学生には引き続き安全教室、メーター確認を月毎に実施するなど違反・事故防止に努める。</li> <li>教室、部室の鍵の管理は各クラス、部で責任を持って管理できるよう徹底する。</li> <li>HR活動で携帯電話やSNSのルール・マナー・モラルについて指導し、トラブルになりそうときには、自分たちで解決したり、注意し合えたりできる環境を整えるよう指導したい。</li> </ul>
4 特別 活動	部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動加入率100%を目指して活性化を図り、学校を元気にする。 (A:100%、B:99～95%、C:94～90%、D:89～85%、E:85%未満)</li> <li>県高校総合文化祭出場者35人以上を目指す。 (A:35人以上、B:34～30人、C:29～25人、D:24～20人、E:20人未満)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>加入率は99%で目標に限りなく近づいている。</li> <li>県総体出場者は新型コロナウイルス対応のため実施できなかった。高文祭参加者は25名とやや目標を達成できなかったが、生徒数減少の中、各部とも成果を上げている。運動部において、新人大会や選手権大会で、人数が足りなかったが、他の部活に協力してもらい参加できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動部を中心に意欲的な活動が実践され、学校全体に活気が見られる、今後も運動部の活性化を推し進めたい。今年度から実施されている「学校の運動部活動に係わる活動方針」に基づいた部活動の運営に取り組むとともに、部員不足解消に向けて知恵を絞りたい。</li> </ul>

評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

	豊かな人間性の育成	・ボランティア活動等への自主的な参加を促し、一人年間2回以上の参加を目指し、公共心や思いやりの心を養う。 (A:2回以上、B:1.9~1.5回、C:1.4~1.0回、D:0.9~0.5回、E:0.5未満)	C	・新型コロナウイルス対応により、ボランティア活動への参加の機会が少なかった。多くの地域の行事、イベントが中止となってしまったが、可能な範囲で生徒の活動の機会を設けることができた。	・部活動やクラス単位で実施したり、誰でもボランティアに参加しやすいように、情報の提供を行う。
5 進路 指導	キャリア教育の充実	・職場見学や社会人を活用した講習会等を通して、具体的に実践的な進路学習を図る。 ・1年次より望ましい職業観や勤労観を育成し、進路実現へつなげる。 ・3年間を見通した進路指導計画の下、適切な情報提供によって生徒および保護者の進路意識の高揚に努める。	C	・感染症予防のため、1学期各種ガイダンスなどが実施できなかったが、オンラインなどによりカバーすることができた。また、各学科、各学年でもキャリア教育に力を入れて取り組んでおり、職場体験や見学で生徒の進路意識の高揚につなげることができた。 ・保護者アンケートから、進路情報を十分に提供することができなかったことを確認できた。	・今後も各学科、各学年で計画的にキャリア教育に取り組んでいく。 ・オンラインを活用した進学・就職説明会に積極的に参加させる。  進路情報の提供方法を検討し、拡充を図る。
	就職指導の充実	・企業訪問を積極的に実施し、職安等の関係機関と連携をとることで求人確保に努める。 ・応募前職場見学の参加により、生徒に自主的・意欲的な就職活動の実践を指導する。 ・進路講演会や職場見学、意識高揚のためのガイダンスに取り組むとともに、面接指導や履歴書指導の充実に努め、就職希望者の決定率100%を目指す。 (A:100%、B:99~90%、C:89~70%、D:69~50%、E:50%未満)	A	・学校幹旋での就職希望者の決定率は100%となった。一人数社の応募前見学への参加ができ、進路選択の参考となった。HR担任のきめ細かな指導が、生徒の意識の向上につながり、着実な成果につながった。 1・2年生合同の校内企業説明会、商工会議所やハローワークと連携したガイダンス等、生徒の進路意識の高揚に取り組めた。	・応募前職場見学および企業訪問は今後も継続していきたい。 ・関係機関との連携を強化していく。 ・多くの先生方に面接等かかっていたいただいた。今後も生徒の進路目標の達成のため計画的に実施していきたい。 ・1・2年生に対して、体系的な進路指導を行う。
	進学指導の充実	・早期に進路目標を設定させ、一人一人に応じた細やかな個別指導を徹底することで生徒の資質の向上を図り、進学希望者の合格率100%を目指す。 (A:100%、B:99~90%、C:89~70%、D:69~50%、E:50%未満)	B	・進学希望者の決定率は100%であった。大学1名、短期大学5名、専門学校24名であった。	・進学補習の見直しが必要である。よりよい方法を検討していきたい。 ・四年制大学への進学希望者を増加させる。 ・早い段階で生徒の進路を把握し、保護者と情報を共有する。
6 農業 教育	資格指導を充実させ確かな力量を確保	・1人1資格以上の取得を目指す。	C	・資格取得の手引きを活用して、資格に向けての意欲を喚起することができた。バイオ検定では、成績優秀により3名が全国表彰を受けた。	・HR担任や資格担当者・教科指導者からの働き方を強め、進路意識の高揚を図るとともに資格取得に向けての意欲を喚起する。
	農業クラブ活動の充実	・ <u>新学習指導要領の実施を見据え、各科目においてプロジェクト活動を実施する。</u>	C	・手探りの状態ではあるが、各科目におけるプロジェクト活動が実施できた。 ・全員参加による農業クラブ活動が実施できた。 ・新型コロナウイルス感染症のため、農業クラブ関係のほとんどの大会が中止となり、生徒の活躍の場が失われてしまった。	・各科目におけるプロジェクト活動の充実を図りたい。 ・コロナ禍における農業クラブ活動の在り方を検討し、活性化に向けて、教職員・生徒ともに努力したい。
	地域に開かれた学校	・農業祭や地域行事に積極的に参加し地域住民との交流1万人以上を目指し、地域に貢献する生徒を育成する。 (A:10,000人以上、B:9,999~8,000人、C:7,999~6,000人、D:5,999~5,000人、E:5,000人未満) ・ホームページ等を利用して、農業教育の魅力や学習成果の情報発信を行う。	C	・新型コロナウイルス感染症のため、地域行事への参加や地域住民との交流が十分にできなかった。 ・農業祭は、感染症対策を行った上で、小規模・限定的に実施することができた。 ・開放講座・うきうきわくわくスクールは、新型コロナウイルス感染症のため中止したが、フワーアレンジメント教室を2回実施できた。	・コロナ禍における開かれた学校の在り方を検討し、農業高校の持ち味を生かした地域交流を深めることで、地域に根ざし、地域に貢献する学校であり続けたい。

評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

7 環境教育	豊かな自然を大切にす る心の育成	・環境美化に努め、緑豊かで潤いのある学習環境 づくりに努める。	C	・新型コロナウイルス感染症のため、例年行っ ている畑の前公園の花壇整備事業は1回の実施 となった。 ・脇川河川愛護モニターの活動を実施した。	・今後も関係機関と協力して、豊かな自然を大切 にする心の育成していきたい。
	身近な環境問題の解決 に主体的に取り組む生徒の育成	・清掃活動5分前移動開始100%及び清掃活動の充 実を図り、校内ゴミ0（ゼロ）を目指す。 (A:100%、B:99~85%、C:84~70%、D:69~55%、 E:55%未満) ・美化活動に努め、汚させない環境づくりをする。 授業を通して環境負荷削減について考えさせ、 環境意識を高めさせる(農業等の授業で取り組 む)。	C	・清掃の5分前移動は達成率74%で例年と変わら ない。大きな意識改革を行ってきたい。 ・レジ袋の有料化に伴い、本校でもレジ袋の使用 中止や生分解性の袋の使用を実施した。また、 分別への意識強化を呼びかけた。	・開始・終了時間を徹底し、集中して取り組むよ う注意喚起をしていきたい。 ・様々な授業や活動を通して環境負荷の少ない生 活について考えさせ、行動に移すように促した い。
8 人権教育	平和と人権を大切にす る心の育成	・生徒人権委員会の活動を活発にし、その活動内 容を「人権だより」や人権教育集会を通して全 校生徒に知らせることにより、校内の人権意識 の高揚を図る。	C	・人権委員は、人権作品の優秀作品の選出、毎月 の人権標語の教室掲示、学期1回の人権啓発ビ デオの視聴等を行った。また、今年度は校外で の講演会や研修会はほとんど中止となり、例年 の活動ができなかった。人権教育講演会や人権 教育集会では、協力して運営・発表等を行っ た。	・来年度は、人権委員が活躍できる場をもっと設 定したい。
	教育相談の充実	・教育相談アンケートを定期的実施し、生徒が 抱えた悩みの実態を把握するとともに、いじめ の早期発見・早期解決を図る。 ・生徒が気軽に相談に来れるように、常に教育相 談室の環境を整えておくのはもちろん、教育相 談員が常駐するようにしておく。	B	・教育相談アンケートは、実施方法や内容を変更 して、各学期に1回ずつ実施した。いじめの早 期発見・早期解決を図ることができた。 ・生徒が気軽に教育相談室が利用できるように、 いつも環境を整えておくことができた。3密を 避けるために、多少入室制限を行った。	・来年度も、教育相談アンケートの回収、処理と 分析を迅速に行い、いじめの早期発見・早期解 決につなげていく。また、HR担任やスクール ライフアドバイザーとの連携を密にしてい
	家庭や地域と連携した 活動の推進	・人権教育HR活動等の人権教育に関する公開授 業の案内や「人権だより」の定期的な発行を通 して、地域や家庭と連携した人権教育を推進す る。	C	・1学期は公開授業を実施できなかったが、10月 の人権教育講演会と12月の人権教育集会には、 多くの参観者に来てもらうことができた。ま た、「人権だより」も定期的に発行することがで きた。今後も継続していきたい。	・人権に関する公開授業に多数の保護者に来ても らえるように工夫をしたが、あまり効果がな かった。来年度は、別の方法を考えたい。
9 情報教育	情報活用能力の育成	・電子黒板や無線LANの導入に伴い、その知識や活 用技術を身につけ、授業に活用できる能力を養 う。 ・校務系ネットワークに対する教職員の理解を深 め、個人情報を守る意識を高める。 ・HPを活用し学校の情報を積極的に発信する。	B	・新型コロナウイルスの影響で、学校におけるI CT機器の活用を一気に進めることができた。 校内での研修会等により、教職員の意識や技能 は確実に向上している。 ・HPはコロナ関係の情報を多く掲載しているた め見にくくなっている。少しずつ整理してい きたい。	・今年度末には生徒一人にタブレット一台が整備 される。教職員のICT関連の研修会を実施 し、より一層の活用を図れるよう努力したい。 ・HPは設定を変え、ブログ以外も担当者が直接 掲載できるようにし、内容の充実を図りたい。
	情報モラル・コミュニ ケーション能力の育成	・パソコンやスマートフォン等を用いたインター ネット、特にSNSの利用について指導し、情 報モラル・コミュニケーション能力の育成を目 指す。	C	・ロイノート導入などで、学習にスマート フォンを利用する機会も増えてきているため、 情報モラルの育成を第一に考えた研修の機会が 必要であったと反省している。	・生徒用PCの充実により、インターネットの危 険性をより具体的に感じることができるよう な研修を考えたい。
10 図書指導	読書習慣の定着	・定期的な図書の出張貸出や図書委員による本の 紹介を通して、朝の読書の雰囲気高める。 ・朝の読書活動を通して活字メディアへの興味・ 関心を高め、日常生活の中で読書に親しむ態度 を育てる。	C	・図書の出張貸出は、新型コロナウイルスや学校 行事の影響で定期的ではないものの、回数を増 やして実施することができた。 ・朝の読書活動を続けることで、少しずつではあ るが読書への関心を高められている。	・各クラスで朝の読書をより充実したものにでき るよう、図書委員の活動を工夫したい。

評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

	図書館利用の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な図書の出張貸出や、多様な本の紹介、学級文庫の充実を通して、朝の読書の雰囲気をも高める。</li> <li>学校全体で朝の読書活動に取り組み、日常生活の中で読書に親しむ態度を育てる。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書の出張貸出や多様な本の紹介、学級文庫の充実に取り組むことができた。</li> <li>休校も影響し、年度当初、学校全体での朝の読書への取組が十分でなく、読書の習慣化、図書館利用の充実につなげられなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書の出張貸出の実施方法を工夫して、多様な本への興味・関心を引き出し、図書館利用の充実につなげたい。</li> </ul>
1 1 学校 保健 学校 安全	心身の健康の保持増進	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健指導や保健委員会活動を充実させ、健康についての意識を高める。</li> <li>健康診断結果や保健室来室状況等をもとに、生徒の心身の健康課題の早期発見、早期対応を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症対策について重点的に、保健だよりや来室時の助言で情報提供を行った。保健委員会では感染症対策用の掲示物や物品を作成した。</li> <li>健診結果や来室時の情報をもとに、個別で声掛けを行った。休校で各検診の実施が遅れた分、例年と比べて二次検査の受診が進んでいない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自らの健康に興味関心を持てるよう、保健だよりや掲示物を生徒に作らせ、保健委員会の活動を充実させる。</li> <li>特に歯科の受診率が低いため、個別に受診勧告を行う。また、歯に関する情報を発信し、歯科衛生についての意識が高まるよう工夫する。</li> </ul>
	学校の安全管理と環境衛生管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内の安全点検（月1回）と実践的な避難訓練を実施し、安全のために自ら考えて行動する力を育成する。</li> <li>環境衛生検査を計画的に実施し、校内環境の維持や改善に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的な安全点検、避難訓練の実施により、意識の向上と実践力を養うことができた。</li> <li>保健委員と定期的環境衛生検査を実施した。また、学校薬剤師の先生に助言をいただきながら毎日校内の消毒を行い、感染症対策を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期点検で校内の安全を確認すると共に、消防署と連携を図り実践的な避難訓練を実施する。</li> <li>衛生面については、今後も定期検査や日常点検を計画的に行い、校内の環境衛生を良好に保つよう努める。</li> </ul>
1 2 学校 行政	施設設備の充実と施設維持管理経費の節減	<ul style="list-style-type: none"> <li>トイレの洋式化を推進する。</li> <li>光熱水費の節約を推進する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>本館4階 女子トイレ 1箇所洋式化工事完了</li> <li>本館1階 男女トイレ 洋式化及び全面抗菌化、センサー対応化工事中</li> <li>本館4階 男子トイレ 洋式化及びセンサー対応化工事中</li> <li>光熱水費は昨年度より支出減で推移している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>洋式化されていないトイレについては順次設置を進める。</li> <li>光熱水費は引き続き節約に努め、他の学校運営費にかかる費用についても効率的・効果的な運用に努める。</li> </ul>

評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。